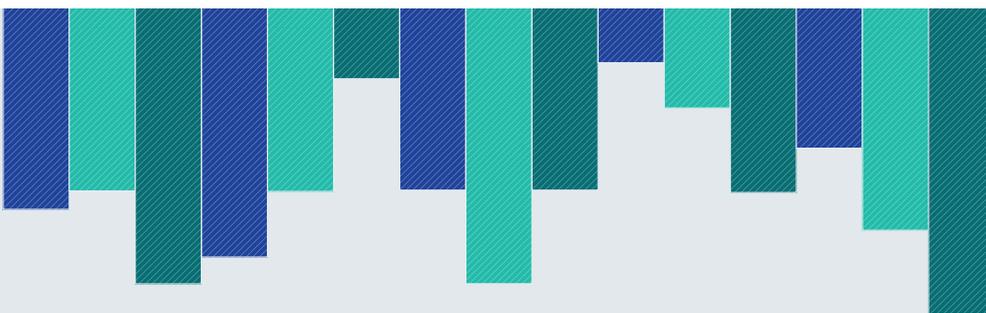


パルスサーベイ

# 前進し続けるために： クラウド主導トランスフォーメーションの現状



スポンサー

## 主催者の視点 (SPONSOR PERSPECTIVE)

クラウドトランスフォーメーションは、それだけで世界経済の前進を促進する最大の好機になります。テクノロジーとセキュリティのリーダーたちの役割は、ビジネス戦略の促進と支援を行う中で拡大し続け、世界中の組織は、クラウドによって急速なペースでイノベーションに火を点け、敏しように強化し、中断に触媒作用を及ぼしていますが、その勢いは増すばかりです。

昨年、Harvard Business Review Analytic Servicesと協力して、調査主導の深く掘り下げた年次研究を開始し、どのようにして組織がクラウドを活用して不確実性を切り抜け、労働力を分散させ、急増するデジタルエクスペリエンスへの需要を満たしているかを把握しました。今年の調査では、組織がクラウドトランスフォーメーションを最適化してイノベーションを継続的に解き放つ様子が明らかになりました。

明らかなのは1つです。クラウドの力を最大限に活用することが、これほどまでに緊急の課題になったことはこれまでになく、調査した上級管理者の67%は、組織でクラウド採用計画を前倒したと回答しており、これは半年前よりも増えています。その上、組織はクラウドへの新規投資を強化し、半数以上が支出を増やしました（その数は2020年には3分の1以下でした）。

組織は、クラウドの力を利用してビジネスの成果を改善しながらも、ハイブリッドクラウド環境によって生じる複雑さに苦労しています。ハイブリッドクラウド環境を有する組織のうち88%は、近い将来もこの戦略を維持すると回答しています。

Splunkでは、国や地域を超えて数千もの組織と連携する中で、この新しいハイブリッドの世界では、強固なデータ基盤が、複雑さを克服してイノベーションを引き出すための鍵になることを認識しています。Splunkの拡張性に優れたデータプラットフォームでは、複雑なハイブリッド環境とマルチクラウド環境にわたって複数の技術に精通した可観測性および統一されたセキュリティが提供され、顧客がクラウド主導のトランスフォーメーションを加速することができるようサポートされます。

私は、自分のキャリア全体にわたって、クラウドトランスフォーメーションがテクノロジーそのものを超えて、人材の採用方法から、財政的な意思決定の方法、チームのコラボレーション方法に至るまで、組織の運営方法が根本的に変化するところを見てきました。

このイノベーションの次の波はクラウドによって可能になりますが、データによって力を得るため、データに対する要求がこれほどまでに大きくなったことはこれまでにありません。こうした現実を追い風に当社事業は勢いを増しています。当社では、データとクラウド主導のトランスフォーメーションにより、顧客がセキュリティ、回復力、革新性を高めることを支援しているからです。

このレポートにより、仲間がクラウドトランスフォーメーションを進めて、自分がクラウドトランスフォーメーションを最適化する方法を洞察し、動きを速めてさらに先を行き、今明日の成功を勝ち取ることを願っています。



**Teresa Carlson**  
**President & Chief Growth Officer**  
**Splunk**

# 前進し続けるために： クラウド主導トランスフォーメーションの現状

コロナ禍の初期に組織のクラウド採用・実装計画に火が点き、この1年は、その火に油が注がれました。「コロナ禍はそれひとつでクラウド採用を加速させる最大のアクセルになりました。これまでこんなことはありませんでした」と説明するのは、カリフォルニア州クパチーノを本拠とするテクノロジー調査・顧問会社であるConstellation Research社でバイスプレジデントと主任アナリストを兼任するDion Hinchcliffe氏です。

世界的に不安定で不確実だったこの2年に確実に言い切れることは、デジタル時代におけるビジネスの成功にはクラウドが不可欠だということです。Harvard Business Review Analytic Servicesが組織のクラウド戦略と採用に詳しい回答者300名に対して2021年10月に実施した調査により、この点は裏付けられています。大多数の回答者（81%）は、組織の今後の戦略と成長にとってクラウドが非常に重要、または極めて重要であると回答しています。

「ポジティブなトレンドです」と言うのは、テキサス州ダラスに本拠を置く戦略的ITコンサルタント・調査会社Everest Groupのパートナー、Yugal Joshi氏です。「クラウドは単なるテクノロジーではなくなり、企業の経営モデルになりました。クラウド採用の拡大と加速に、それが反映されています。」

たしかに、調査の回答者はこの1年で、Harvard Business Review Analytic Servicesによる前年（多くの組織がクラウドサービスへの即座移行またはその採用を強いられた年）のクラウド調査のときよりも、クラウド実装のさらに速い加速と拡大の絵を描いています。これらの組織はクラウドに目を向け続けて、ビジネスの敏しろう性、コスト削減、データ分析能力の改善、およびイノベーションの加速をサポートして可能にしようとしています。

ただし、クラウドの急速な加速と拡大により、統合と管理の点だけでなく、新たなサイバーセキュリティ、データプライバシー、ROI測定、クラウド人材の問題という点でも、それ自体の課題が生じました。多くの回答者がオンプレミスシステムに加えて

## ハイライト



調査回答者の**81%**は、**組織の今後の戦略と成長にとってクラウドが非常に重要、または極めて重要であると回答しています。**



**67%**は、この12カ月間に、**組織ですでに計画したクラウドアプリケーション、サービス、インフラストラクチャの採用または実装を前倒ししたと回答しています。**



**62%**は、増加するクラウド採用の管理に必要な**テクノロジーの役割と責任の急速な展開に組織で歩調を合わせることに困難を抱えていることを認めています。**

数字の丸めにより、このレポートの数値の合計が100%にならないことがあります。



「コロナ禍はそれひとつでクラウド採用を加速させた最大のアクセルになりました。これまでこんなことはありませんでした」と説明するのは、Constellation Research社でバイスプレジデントと主任アナリストを兼任するDion Hinchcliffe氏です。

クラウドを活用しており、近い将来にこのようなハイブリッドクラウドインフラストラクチャのメンテナンスが見込まれる状態では、このように複雑な環境を効率的に管理することが困難になることは明白です。

その結果として、組織ではクラウドの価値を未だに十分活用できていません。回答者が近い将来にクラウドのワークロードの割合を急速に高めたとしても、増大するデータ、サービス、システムのポートフォリオを測定、管理して、その安全を確保する方法を組織で改善して能率化する必要性が残ります。

この調査結果によって強調されるのは、データのアクセスと使用を効率化するクラウド管理戦略がビジネストラנסフォーメーションを可能にする上で果たす重要な役割です。次のレポートでは、企業内で継続、加速しているクラウドの拡大、およびその拡大の牽引役など、クラウドによるトランスフォーメーションの現状について検討します。クラウドの加速と拡大によって生じる課題、および組織でそれを乗り越えるための対策を明らかにして、クラウド

で成果が上がるどころとクラウドが期待にそぐわないところについて検討し、クラウドの最適化とデータ戦略の改善が今日の道理である理由を特定します。

## 急拡大するクラウド

クラウドは、コロナ禍の最初の年に、分散して自宅から仕事をする従業員のサポートから、新しいデジタル顧客機能の要求まで、多くの組織の課題に対する主な解決策として登場しました。

調査結果によると、クラウドへの移行は2020年を通して続きました。実際に、大半の組織はこの1年に、クラウドの採用と実装をさらに加速、拡大しました。

回答者の3分の2以上(67%)は、組織ですでに計画したクラウドアプリケーション、サービス、インフラストラクチャの採用や実装をこの12カ月で前倒ししたと回答し、前年の調査においてコロナ禍の結果として組織でこれを行なったと回答した56%から増加しました。(図1を参照)半数以上(53%)は、組織で新規クラウドアプリケーション、サービス、インフラストラクチャへの投資がこの1年で増加したと回答し、前年、コロナ禍の結果としてこのようになったと回答した32%から増加しました。10人に4人(41%)は、この1年に組織でクラウドの新しい別の使用事例に焦点を当てたと回答し、2021年にコロナ禍の結果としてこのようにしたと回答した28%から急増しました。

2020年に始まったクラウドに対する取り組みは2021年にも続き、多くの企業はリモートワークやハイブリッドワークの能力を継続的に築いています。コストを抑えて効率を上げるプレッシャーも持続している、とJoshi氏は言います。しかし、クラウド採用拡大への着実な動きは、コロナ禍を契機としたもの以上であり、デジタル化の流れが進んでいるといえます。「それを越えて、まったく新しいデジタルトランスフォーメーションの取り組み、速く革新する必要性に進んでいます」とJoshi氏は言います。「クラウドを活用してこのデジタルトランスフォーメーションを行うしかありません。」

今日、35%の回答者は、60%以上のワークロードがクラウドで行われていることを示唆し(前年の調査でそう回答したのは30%)、半数以上(54%)の回答者は、40%以上のインフラストラクチャとアプリケーションが現在クラウド上にあると回答しています(前年の調査でそのように回答したのは51%)。回答者は、近いうちにワークロードの移行がかなり進むと予想しています。ほぼ3分の2(65%)は、60%以上のITポートフォリオが2年以内にクラウド

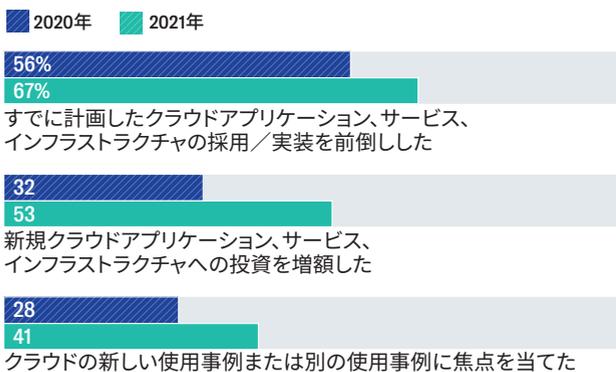
図1

### クラウドの継続的な増加

2021年には、クラウド採用を前倒しした、もしくは増やしていると答えた回答者がさらに増えました。

2021年:クラウド採用計画の前倒しや変更があった場合、この12カ月に組織では次のどの方法でそれを行いましたか?  
[該当するものをすべて選択]

2020年:コロナ禍による組織のクラウド採用計画の前倒しや変更があった場合、次のどの方法でそれが生じましたか?  
[該当するものをすべて選択]



出典: Harvard Business Review Analytic Servicesの調査、2021年10月

に存在することになることを示唆しています。現在より30%も急増することになります。合計85%は、2023年までに最低でも40%がクラウドに存在することになると回答しており、今日その量がクラウドにあると報告している人よりも、同様に32%高くなっています。

個々のレガシーエンタープライズアプリケーションの大半は、まだクラウドに移行していません、と指摘するのはConstellation ResearchのHinchcliffe氏です。「クラウドはすでに巨大です」と彼は説明し、大量のアプリケーションが存在してその一部は複雑なコアアプリケーションであるが、これはオンプレミスに残っている、と付け加えます。

調査結果から分かるように、ハイブリッドクラウド（オンプレミスインフラストラクチャ、プライベートクラウドサービス、パブリッククラウドの混合）が多くの組織の支配的なテクノロジーアプローチであり、これはそのまま残るでしょう。回答者の85%は、組織に現在ハイブリッドクラウド環境があると回答しており、その88%は当面の間、組織でハイブリッドクラウドアプローチを維持すると見込んでいます。

中西部で13軒の病院を展開するヘルスケアシステム、Franciscan Allianceでも、ハイブリッドクラウドアプローチを維持しています。『「クラウドファースト」の価値については多くの議論があります」と言うのは、Franciscan Allianceのテクノロジー担当バイスプレジデント、Chuck Christian氏です。「ただし病院として、一部のソフトウェアではネットワーク遅延が許容されないため、オンプレミスに残す必要があります。」組織で使用するクラウドベースサービスの数は増加していますが、ワークロードを配置する最適な場所についてはケースバイケースで判断します。

Franciscan Allianceの情報セキュリティ担当役員、Jay Bhat氏は、「ヘルスケア組織として、価値はデータとデータ移動にあります」と言います。多くの場合、クラウドサービスは組織の利益になりますが、課題も生じます。「クラウドのプロバイダーとアプリケーションを増やすと、複雑さは大きく変化します」と彼は言います。「新しい環境を追加するたびに、データの共有方法と保護方法の複雑さは増し、ある環境から別の環境に適切なデータのみを移動する必要があります。」

## クラウドの急拡大に伴う困難

クラウドの使用の急拡大は、敏しよ性と柔軟性の改善およびデジタルトランスフォーメーションの推進の基盤として、企業の大きな前進を表しますが、クラウド採用の急拡大により、組織には課題も生じます。

最も注目すべきは、組織がクラウドの管理に必要なスキルの習得に取り組み、サイバーセキュリティとデータプライバシーに関して高まる懸念に組み合っていることです。前年にクラウドの採用が加速または拡大した組織の調査回答者によると、組織で取り組んでいる上位の問題は、クラウドの人材不足(45%)、サイバーセキュ

リティとデータプライバシーの懸念の拡大(44%)、クラウドサービスとデータを統合する問題(34%)、クラウドの全体的な事業価値の測定が難しいこと(34%)、テクノロジー環境全体を徹底的には見渡せないこと(31%)です。(図2を参照)

図2

### クラウド拡大の課題

組織は、クラウドのスキル、サイバーセキュリティ、データプライバシーに関連する問題に直面しています。

この1年、クラウド採用の増加により、組織でどのような課題に直面しましたか？

[該当するものをすべて選択]



出典: Harvard Business Review Analytic Servicesの調査、2021年10月



「クラウドは単なるテクノロジーではなくなり、企業の経営モデルになりました。クラウド採用の拡大と加速に、それが反映されています」と Everest Groupのパートナー、Yugal Joshi氏は言います。

Franciscan AllianceのITリーダーは、自分たちがクラウドベンダーに恵まれて、最高で最も聡明な人材を引き付け、ヘルスケアシステムにテクノロジーイノベーションをもたらしていると見ています。しかし、複雑さを増すハイブリッドクラウド環境の管理に必要な社内スキルの維持は難題であり、優先事項でもあります。「最大の課題は、さまざまなコストモデルとサービス提供の最新情報に通じて、どのツールを使ってどの問題を解決できるかを常に把握することです」とFranciscan AllianceのChristian氏は言います。

サイバー攻撃の脅威が偏在する状況では、組織がクラウド採用のペースを上げる中でサイバーセキュリティとデータプライバシーの懸念が増しても驚きではありません。「サイバーセキュリティは、デジタルトランスフォーメーションの背景において、最高情報責任者(CIO)が抱える上位2つの懸念事項の1つです」とHinchcliffe氏は言います。「支出が大きく、注目を集めている分野です。」組織の多様なテクノロジーエコシステムの見通しと管理に密接に関係している分野でもあります。

Franciscan Allianceの目標は、テクノロジー環境全体を徹底的に見通せるようにして、IT管理とサーバー防衛を改善することです。ハイブリッドクラウド環境を管理し、さまざまなツールを使用して管理することは、組織にとって難題です。「いま取り組んでいる大きな分野は、社内のガバナンスと把握です」とChristian氏は言います。「これがデータセンターにないとしたら、誰がどの責任を負うのでしょうか？」最終的に企業は、「単一の管理ポイント」から見通して、テクノロジー環境全体にわたって管理可能にすることを望んでいる、とFranciscan AllianceのBhat氏は言います。

ツールと戦略を整えて、クラウドサービスとデータをその存在場所に関係なく統合することに価値があることは明らかです。それがないと、組織では、マルチクラウド環境とハイブリッドクラウド環境の管理に格闘することになります。「データ管理は、かなりの腹立たしさの原因になるものです」とHinchcliffe氏は付け加えます。「いつかは解決されると思いますが、未だに開拓段階であり、開拓者の背中には矢が突き刺さっています。組織は、クラウドに存在するデータが増える中で、データ管理をどうにか解決しようとしています。」

これは、組織がクラウドに飛びつく中で思いさらされる現実です。「このような取り組みの多くは、ある意味、場当たりのことです」とHinchcliffe氏は言います。その結果、彼が説明するには、組織は

この1年のクラウドの請求書に驚き、ベンダーのサービスレベル合意書(SLA)およびそれとの関係に不満を持ち、直面しているシステムとデータの統合という課題と格闘しています。現時点では、リーダーの中に、クラウドへの「リフト&シフト」移行による利益が限られていることに気付いている人もいますが、クラウドに関する最適な意思決定の目標が、効率を高めることだけではなく、正しい方向に資金を使い、ビジネス目標を達成することでもあることを認識し始めているリーダーもいる、とEverest GroupのJoshi氏は言います。

## 一貫した目標および見逃した好機

クラウドへの投資がビジネスの成果と一致していることの重要性が高まっています。最も初期のクラウドサービスは、組織の資金節約メカニズムとして売り込まれましたが、現在のクラウドは明らかにコスト節約の手段以上のものになっています。スピード、敏しよ性、回復力、イノベーションの重要基盤になっています。

今年の調査の回答者は、全般的に見て、クラウドへの投資から、前年の調査と同じ成果を一貫して求めています。上位を占めるのは、ビジネスの敏しよ性、コストの柔軟性、データの能力です。組織がクラウドから最も期待するビジネス結果を5項目選択するように求めると、ビジネスの敏しよ性が2020年と同じように1位でした。半数を超える(52%)回答者がビジネスの敏しよ性を上位5項目に挙げ、今年、最も望まれる成果となりました。(図3を参照)

また、44%はコストの削減または柔軟性を求め(前年と同様に第2位)、42%はデータのアクセス/分析/操作によって洞察を提供する機能を求め、イノベーションの加速を求める回答者と、標準化またはプロセス効率の向上を求める回答者は39%で同数でした。イノベーションを上位5項目に挙げたのが10人中約4人に留まり、この分野で結果を確認したのが約4分の1にすぎないことは驚くべきことかもしれません。さらに重要なことは、クラウドが今日、デジタルトランスフォーメーションとビジネスイノベーションの重要基盤として働き、それを実現する要因であるのに、その好機を見逃していることだとJoshi氏は言います。

クラウドへの投資の結果として組織で今までに実現した成果について尋ねると、42%がクラウドから組織のビジネス敏しよ性が強化されたと回答し、39%がコストの削減または柔軟性を経験し、3分の1はデータのアクセス/分析/操作によって洞察を提供する

機能に関連して結果を出し、27%はイノベーションの加速を確認しました。このすべての目標について、回答者が達成を最も期待する成果と、各分野において進展を実際に報告する回答者の数との間にはギャップがあり、この調査結果は2020年の結果と一致します。

## 再評価するか価値を逃すか

この1年、一部の組織はクラウドに対するアプローチを再考し始めました。「現在は、ベンダーを実質的に調査し、製品選択とアーキテクチャについて考え、ベンダーとの関係、SLA、コストを検討しています」とHinchcliffe氏は言います。「いったん戻って、最初は顔面どおりに受け入れざるを得なかったものをすべて検討しています。」

カリフォルニア州サンタクララに本拠を置く教育テクノロジープロバイダー、Cheggの情報セキュリティ最高責任者(CISO)、John Heasman氏が言うには、Cheggは長期にわたってクラウドを利用しており、クラウドネイティブサービスを活用してスケールの複雑さという問題に対処しています。Cheggでは、コロナ禍が始まって以降、オンライン学習が有力な教育モデルとなり、需要が急拡大したため、サービスを急速に拡大する必要がありました。

図3

### クラウドの目標と結果

組織は、敏しよ性、コスト、データ機能の改善を求めています(時には達成しています)。

組織でクラウドへの投資から最も求めているビジネス成果は何ですか？  
[5項目まで選択。12項目の選択肢のうち上位5項目を表示。]

クラウドへの投資の結果として、組織で現在までに実現した成果は何ですか？  
[該当するものをすべて選択]



出典: Harvard Business Review Analytic Servicesの調査、2021年10月

「クラウドにより、この急拡大を管理できました」とHeasman氏は言います。

Cheggではこの1年、クラウドへのアプローチの見直しを開始し、クラウドアカウントを小さく柔軟にしてエンジニアリングチームが使用できるようにしました。「クラウドを長く使っていたため、何がうまく機能し、何が機能しないかを知り尽くしていました」とHeasman氏は言います。「結局、一歩さがってアーキテクチャを検討し、クラウドインフラストラクチャのベストプラクティスに合わせてプロセス全体を改善することになりました。」この投資により、新しいサービスの開発とデプロイメントを加速し、よりスケラブルな方法で今後に備えることについて経営幹部チームを説得してから、2021年の春に作業が始まりました。この作業は2022年末まで続きます。「『新しいアカウントができました。ご自由にお使いください』と言ってすむことはありません」とHeasman氏は言います。「つぶさに計画して適切なレベルの監視を確保しながら、チームがクラウドネイティブテクノロジーから十分に利益を得られるようにする必要がありました。」

さまざまな業界のテクノロジー部門は、ビジネスの成果を可能にしてそれを達成するというプレッシャーを受けています。ほぼすべて(90%)の回答者は、組織のIT部門がビジネスの成果を上げることへの期待が高まっていると言っています。クラウドは、多くの場合、テクノロジーによって可能になるビジネス目標を達成できるようにする主要因です。

CheggにおけるHeasman氏とIT責任者の任務は、素早く機敏な目標達成のために必要となる能力を社内エンジニアに身に付けさせることです。Heasman氏の課題は、ビジネスを停滞させずに、安全で一貫した方法を確保することです。「一方では、クラウドインフラストラクチャとセキュリティのチームがガードレールを適切に設置したが、他方でクラウドネイティブサービスの利用者はそれを足場とする必要があります」とHeasman氏は言います。「そのバランスを適切に取り、エンジニアリングチームが明らかに安全な方法で、より速く目標を達成できるようにする必要があります。」

一般データへのアクセスでは、クラウドリソースの管理において、セキュリティ、一貫性、コラボレーションを高めることができます。クラウドを長年利用しているCheggでは、「コードとしてのインフラストラクチャ」も実装し、クラウドリソースの設定を自動化して、設定変動の発生(設定の変更により、サイバーセキュリティリスクが生じること)を排除しています。ただし多くのIT組織は、増加するクラウド採用の要件の急速な進展に歩調を合わせることに困難を抱えています。多くの回答者(84%)は、組織の技術チームの役割と責任が、クラウド採用の増加に伴って急速に増大していると言います。実際に、約3分の2(62%)は、組織で役割と責任の変動に歩調を合わせることに困難を抱えていると言います。

「クラウドは非常に速く簡単に採用できます」とHinchcliffe氏は言います。「しかし多くのIT組織は、ITサポートの提供の点で

強い負担を抱えていることに気付いています。最大の問題は、この2年間に生じた変化をすべてサポートし、何がうまく機能し、何が機能しなかったかを把握することです。」

## 今後のためのクラウド管理の最適化

組織がクラウドの利用を続けるにつれて、問題は拡大し続けます。「ベンダーの数は増え、ベンダーが提供するサービスの数は急激に増加しています」とJoshi氏は言います。「クラウドの無秩序な広がりには悪化するばかりです。」

CheggのHeasman氏は、クラウドの戦略と構造について慎重に検討することの重要性を強調します。「ベストプラクティスが明らかになったら、それに従ってください」と彼はアドバイスします。企業は、クラウドサービスへの自由なアクセスを許可されたら、それを利用するでしょう。「持っていることを知らなかったサービスすべてに、後で気付くことになり」とHeasman氏は言います。「それを管理、制御する方法を見つけ出すことは興味深い課題です。」

すべての組織が、必要なものをすべてクラウドベンダーから受け取って、クラウド環境の管理と最適化を行っているわけではありません。クラウド環境の管理と最適化に必要なツールとプロセスをすべてクラウドベンダーが提供してくれていると強く主張しているのは21%にすぎず、ある程度それを認めているのは42%です。

Cheggは買収によって部分的に拡大し、その過程でマルチクラウド環境も積み重なりました。「これはおもしろい課題で、単一の管理ポイントから管理するように簡素化したいのに、どのクラウドベンダーにもそれができないのです」とHeasman氏は言います。Cheggはサードパーティパートナーと協力して、クラウドセキュリティとデータ検出に対する統合アプローチを生み出しています。

複雑になって行くマルチクラウド環境とハイブリッドクラウド環境の管理を簡素化して調整するには、データのアクセスと使用に関してエンタープライズプランを明確にすることが重要です。大多数の回答者は、組織に総合的なデータ戦略があってテクノロジー環境を管理していると報告しています。3分の2以上（68%）は、クラウドも含めたテクノロジー環境にわたって、データの収集、保存、管理、共有、使用を行う方法についてのプランが組織にあると回答しています。ただし、改善の余地はあります。調査結果によると、データ戦略の改善が、近い将来にクラウドの主な優先事項になるのです。半数以上（55%）の回答者は、テクノロジー環境にわたってデータの管理と使用に関する戦略を改善することが、次の2年間の主な重点領域と投資分野になるだろうと回答しています。（図4を参照）

「CIOは、データがクラウドの範囲を越えて分散し、管理不能になっているところを目の当たりにしています。データは世界の隅々に拡散しているのです」とHinchcliffe氏は言います。「これが不安につながり、多くのデータがクラウド内に収まっているうちにデータ管理の方法を見つけ出そうとすることになります。」

図4

### 今後のクラウドへの投資

データ戦略、セキュリティ、人工知能に対応した分析が最優先事項です。

組織のクラウド戦略に関して、次の2年間に、どの分野に焦点を当てて投資しますか？ [該当するものをすべて選択]



出典：Harvard Business Review Analytic Servicesの調査、2021年10月



「一方では、クラウドインフラストラクチャとセキュリティのチームがガードレールを適切に設置したが、他方でクラウドネイティブサービスの利用者はそれを足場とする必要があります。そのバランスを適切に取り、エンジニアリングチームが明らかに安全な方法で、より速く目標を達成できるようにする必要があります」とCheggのCISO、John Heasman氏は言います。

ビジネスデータだけではなく、効果的で先を見越したITパフォーマンスのサイバーセキュリティ管理に必要なオペレーションデータも含めて、データを適切に処理することが最優先です。「データ管理という課題のために、多くの組織は優秀なデータセンターとクラウドセンターを設置しています」とJoshi氏は言います。「データは非常に重要であるため、多くの組織は、現在のものよりもはるかに優れたデータ戦略を必要としています。クラウドトランスフォーメーションを行うには、イノベーションにとって重要なメタデータの適切な管理も不可欠です。」データパイプラインに自動化をさらに統合することが有用だと彼は付け加えます。

調査回答者によると、クラウドリソースのセキュリティの改善も、近い将来に主な重点領域と投資分野になります。クラウドリソースのセキュリティへの対処では、DevSecOps(ソフトウェア開発ライフサイクル全体にセキュリティを統合するアプローチ)がひとつの方策となり、組織がアプリケーション開発とインフラストラクチャのプロセスにセキュリティを組み込むことを求めている中でそれが支持を集めている、とJoshi氏は言います。回避策の先手を打つには、セキュリティ優先の心構えを企業全体に義務付ける必要がある、と彼は付け加えます。

クラウドの経済は重要な役割を果たし続けるでしょう。特に、エンタープライズアプリケーションやメインフレームのように複雑なワークロードの移行を検討するときには非常に重要な役割を果たします。「簡単な仕事は終わりました」と彼は言います。「ITリーダーはさらに強固なビジネスケースを構築し、より複雑なシステムの最新化に必要な投資を経営幹部チームに認めさせる必要があります。」組織はさらに熱心に計画を練り、選択肢を検討しつづける必要もあるでしょう。

## 明日を自分の手中に収める

クラウドへのシフトが続くことは確かです。「問題は、そのシフトがどのようなものになるかです。どのワークロードがどこへ行くのでしょうか。また、どのようにしてそこへ行くのでしょうか? これは複雑な問題です」とJoshi氏は言います。Hinchcliffe氏によると、クラウドのベンダーとサービスが増え続ける中、組織では有望なマルチクラウドアーキテクチャと戦略を見つけ出す必要もあります。

調査結果が示すように、大多数の組織は、テクノロジー環境にわたってデータの管理と使用の戦略を改善することに集中しています。今後のクラウドへの投資の価値を完全に引き出し、組織が求める成果を達成するためには、その戦略が一般的なデータ基盤と共に不可欠になります。

最終的に、このような取り組みが長期的に成功するかどうかは、クラウドの顧客自身の手にかかっています。クラウドベンダーは、Bhat氏によると、特にテクノロジーに詳しくないビジネスリーダーと話すとき、クラウドテクノロジーの価値を常に過大に宣伝します。「本当は、テクノロジーはパズルのピースでしかありません」と彼は言います。「そこから価値を引き出すには、適切な人材とプロセスを配置し、新機能をロールアウトしてテストし、ビジネスプロセスを変更するというプロセスに取り組む必要があります。そうしないと、クラウドに移行する価値をすべて失ってしまいます。」

アプローチを最適化しない組織は、コスト削減と効率の改善の点だけでなく、動きが速くて不安定で競争が激しい市場におけるイノベーション、ビジネス上の優位性、将来の成功の基盤としてのクラウドの戦略的な利点についても、クラウドの利益を逃すリスクを負うことになります。「インフラストラクチャを再構築できることは、とりわけセキュリティの観点から大きな利益です」とHeasman氏は言います。「正解は一つではありません。重要なことは、クラウドサービスを使用する能力の点においても、適切なセキュリティとコンプライアンスのガードレールを整備する点においても、組織内で正しいバランスを見つけることです。戦略を本当に慎重に計画すれば、クラウドの計画をビジネスニーズに対して時代遅れにならないようにすることができます。」

## 方法および参加者のプロフィール

HBRの視聴者や読者（マガジン／ニュースレターの読者、顧客、HBR.orgのユーザー）から選ばれた、合計300名の回答者が調査に参加してくださいました。

組織の規模	序列	主要業種	職務	地域
13% 従業員 500～999人	21% 経営管理	21% テクノロジー	24% IT	52% 北米
31% 従業員 1,000～4,999人	55% 上級管理職	14% 金融サービス	16% 一般／経営管理	19% 欧州
12% 従業員 5,000～9,999人	31% 中間管理職	10% 製造	9% 営業／ ビジネス開発／ カスタマーサービス	15% アジア／太平洋／ オセアニア
45% 従業員 10,000人以上	1% その他すべての 階級	9% 医療  その他すべての 業種はそれぞれ 8%未満	8% 研究開発／ イノベーション／ 製品開発  その他すべての 業種はそれぞれ 8%未満	9% 南米  4% 中東／アフリカ

数字の丸めにより、データの合計が100%にならないことがあります。





**Harvard  
Business  
Review**

ANALYTIC SERVICES

## SPLUNKについて

Harvard Business Review Analytic ServicesはHarvard Business Review Group内の独立系商業調査部門で、管理の重要課題および新たなビジネスチャンスに関する調査と比較分析を行っています。各レポートは、ビジネスインテリジェンスとピアグループインサイトの提供に努めて、元の定量／定性調査と分析の結果に基づいて公開されます。定量調査はHBR Advisory Council (HBRのグローバル調査パネル) によって行われ、定性調査は、*Harvard Business Review*の著者コミュニティ内およびそれ以外の幹部社員と対象分野の専門家によって行われます。メールはhbranalyticservices@hbr.orgまで送信してください。

[hbr.org/hbr-analytic-services](https://hbr.org/hbr-analytic-services)